

登録コード	SSF13600	開講年度	2026						
授業題目	生態システム解析演習 II					担当教員	朴 虎東 他		
英文授業名	Seminar on ecosysyem analysis II					副担当	國頭 恭・宮原 裕一・牧田 直樹・笠原 里恵・浦井 暖史		
単位数	4	講義期間	通年	曜日・時限	不定期				
講義室					備考				
信大コンピテンシー	該当								
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				⇔	【授業の達成目標】			
	2 4 SSカリ・理学								
	～24SS【DP3】それぞれの研究分野における高度な専門的知識とグローバルな情報収集・発信能力				⇔	自然環境における専門知識に基づく論理的な思考力と、分野を越えた課題にも柔軟に対処できる適応力と実践力を身につけることができる。			
	2 6 SSカリ・理学， 2 5 SSカリ・理学								
	【DP3】さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力				⇔	自然環境における専門知識に基づく論理的な思考力と、分野を越えた課題にも柔軟に対処できる適応力と実践力を身につけることができる。			
(2)授業の概要	生態システム中で機能する，窒素循環，環境化学・化学生態・環境毒性，森林生態，土壌微生物，動物プランクトン生態に関わる研究の現状と課題を理解して，課題の解決において重要な研究について学習する．各課題についてまとめを行い，発表・討論を重ねることで，深い専門知識と論理的に思考する能力を習得する．								
(3)授業のキーワード	森林生態，土壌微生物，窒素循環，環境化学，化学生態，環境毒性								
(4)授業計画	第1回 オリエンテーション演習の進め方 第2回 課題の抽出-窒素循環 第3回 課題の抽出-環境化学・化学生態・環境毒性 第4回 課題の抽出-森林生態 第5回 課題の抽出-土壌微生物、動物プランクトン生態 第6回 文献の抽出-窒素循環 第7回 文献の抽出-環境化学・化学生態・環境毒性 第8回 文献の抽出-森林生態 第9回 文献の抽出-土壌微生物 第10回 文献の抽出-動物プランクトン生態 第11回 研究例の読解-窒素循環 第12回 研究例の読解-環境化学・化学生態・環境毒性 第13回 研究例の読解-森林生態 第14回 研究例の読解-土壌微生物 第15回 研究例の読解-動物プランクトン生態 第16回 研究手法の理解-窒素循環 第17回 研究手法の理解-環境化学・化学生態・環境毒性 第18回 研究手法の理解-森林生態 第19回 研究手法の理解-土壌微生物 第20回 研究手法の理解-動物プランクトン生態 第21回 課題解決法の提案-窒素循環 第22回 課題解決法の提案-環境化学・化学生態・環境毒性 第23回 課題解決法の提案-森林生態 第24回 課題解決法の提案-土壌微生物 第25回 課題解決法の提案-動物プランクトン生態 第26回 検討事例と討論-窒素循環 第27回 検討事例と討論-環境化学・化学生態・環境毒性 第28回 検討事例と討論-森林生態 第29回 検討事例と討論-土壌微生物								
(5)成績評価の方法	説得力のある発表，質疑応答ができるか，論理的思考能力，表現力の観点から総合的に評価する．								
(6)成績評価の基準	説得力のある発表，質疑応答ができるか，論理的思考能力，表現力の観点から総合的に評価する． 90%以上を秀，80-89%を優，70-79%を良，60-69%を可，60%未満を不可とする．								
(7)事前事後学習の内容	特になし								
(8)履修上の注意	特になし								
(9)質問,相談への対応	各教員と相談								
【教科書】	指定しない								
【参考書】	指定しない								